

施策番号 1-1-2	施策名 農業生産性の向上と経営基盤支援	基本目標	農業を軸とした活力と賑わいのあるまちづくり			
		政策名	持続可能な農業の基盤整備と支援の強化			
	主管課	農林課	課長名	我妻 修一	内線	242
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図				結果	
環境に配慮し、効率的な農業生産を進めるとともに、本町農業・農畜産物の理解を促進し、農業の持続的発展による安定した地域経済の推進を図ります。		農業経営体 農業者で組織する団体(生産・加工・流通)		・生産性の向上に向けた土づくり、適正な輪作、病害虫・有害鳥獣対策を進める ・先進的技術や施設整備による効率的な農業経営 ・地元産農畜産物のPRと販路拡大				安全・安心の農畜産物の供給 持続可能な農業経営による地域経済の拡大・推進	
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度目標		
① 農業産出額	農業生産額(農業再生協議会)	億円	270	311	297	363	314		
②									
③									
④									
成果指標設定の考え方		①農業産出額を本施策の成果指標とし、過去最高の数値と同程度を目指すもの。							

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算	2021年度決算
施策事業費(千円)	455,509	1,026,646	3,857,924	557,713
人工数(業務量)	4.4870	4.3966	5.4247	4.2624

3. 施策の達成状況

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)

(1) 施策の達成度とその考察			
①2021年度の成果評価(前年度との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	<ul style="list-style-type: none"> ・農業振興センターの営農指導などによる農業技術の向上、経営基盤の安定化 ・適正輪作体系の推進、良質な堆肥施用による土づくり支援
②2022年度の目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	<ul style="list-style-type: none"> ・農業振興センターを中心に、関係機関が連携した営農指導により目標達成が期待できる。 ・光ファイバー網の活用などデジタル化の推進や、国や道の補助事業等を活用した機械・設備の導入により、農業生産の効率化が期待できる。
(2) 施策の成果評価に対する2021年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	農業振興センター運営支援事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	<ul style="list-style-type: none"> ・農業生産性の向上、経営基盤の安定化を図るため、農業振興センターによる技術普及、省力化体系の推進や気象情報を活用した営農指導、経営分析を通じた農業経営管理の強化などの営農指導を継続した。 ・酪農現場における労働負担軽減を図るため、畜産クラスター事業により整備した哺育育成施設の供用が開始された。 ・「芽室町ICT農業検討会議」において、光ファイバー運用開始後の活用方法の検討を始めた。 		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)

担当課 評価	成果指標が目標を達成するとともに、継続的な営農指導や、インフラ整備、機械・設備の導入などにより、外的要因(天候、災害など)に大きく影響されない強固な経営基盤が確立されてきたと考える。	進捗結果	A	B	C	D	E
					○		

A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
 D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲリラ豪雨など、予測できない天候に対応するため、よりきめ細かな気象情報の提供が必要となっている。 ・農家戸数の減少による1戸当たり耕作面積の増、労働力不足を解決するための一つの方策として、農業現場へのデジタル導入を促進する必要がある。 ・2021年度に供用を開始した哺育育成施設について、受入頭数の確保に向けた取り組み、町営牧場との一体的管理体制の構築を検討する必要がある。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

<ul style="list-style-type: none"> ・農業振興センターの運営を継続し、農業者への営農指導・経営分析による経営基盤の安定化を引き続き図る。 ・設置から25年が経過した農業気象情報機器を更新し、農業者にとってより使いやすく、有用な情報を提供する仕組みを構築する。 ・「芽室町ICT農業検討会議」において、光ファイバー網の活用をはじめ、農業分野におけるデジタル化を推進するための具体的方策を検討する。 ・哺育育成施設と町営牧場の一体的管理体制についてJAめむろと協議し、より効率的・効果的な手法を見出す。
--

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	取組により成果指標では過去最高額を更新しており、前期実施計画策定時と比較して大きく前進したと評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E
					○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。農業DXについて、JAめむろと協議のうえ、進めてください。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	成果指標に対し、目標値を大きく超えた結果であったことから、庁内評価と同様に大きく前進したB評価とする。	進捗結果	A	B	C	D	E
					○		
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・農業DXについて、どの部分をアナログからデジタルに変更するか、効率を考えた上で、農業者へ周知進めていただきたい。 	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した					